

岡山県農林水産総合センター  
農業研究所臨時報告

第86号

〔農業研究所125年誌〕

令和8年3月

RESEARCH INSTITUTE FOR AGRICULTURE,  
OKAYAMA PREFECTURAL TECHNOLOGY CENTER FOR  
AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

NO.86

The 125th Anniversary of our Station  
March 2026

岡山県農林水産総合センター農業研究所

RESEARCH INSTITUTE FOR AGRICULTURE,  
OKAYAMA PREFECTURAL TECHNOLOGY CENTER FOR  
AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

OKAYAMA, JAPAN

## 序

このたび岡山県農林水産総合センター農業研究所が 125 周年という歴史的で、かつ大きな節目を迎えることになりました。明治 34 年に農事試験場として設立され、欧米技術を吸収しながら科学的農法の組み立て、品種改良、土壌改良、病虫害の克服、食料増産、農家の所得向上などを通じて本県農業の近代化や生産性向上等に果たした役割は計り知れないものがあります。これもひとえに歴代の研究者諸氏のご精進の賜物であり、心から敬意と感謝を申し上げる次第であります。

とくに岡山県は、古くから篤農家のチャレンジ精神も旺盛で農業研究所との連携を密にしながら米や果物の品種開発、栽培技術、機械化技術などで全国の農業を常にリードして、農業の近代化に大きな貢献をしてきました。

農業政策の流れを見ますと、戦後までは個々の農家の技術向上や集団化、昭和 30 年代の経済高度成長時代では選択的拡大による団地化、昭和 45 年からは稲作転換が大きな柱でありました。現在では農産物の自由化による国際化とそれに伴うコスト低減や品質向上、環境負荷の低減や気候変動への対応、担い手の高齢化、減少によるスマート農業技術の開発などが主要課題となっています。

このような背景のもと、国は「食料・農業・農村基本計画」や「みどりの食料システム戦略」などを通じ、食料の安定的な供給や輸出の促進、中山間地域の振興等を図っています。また、岡山県では「晴れの国おかやま生き生きプラン」や「おかやま農林水産プラン」を策定し、儲かる産業としての農林水産業の確立に向け、取り組んでいます。

こうした目標を実現するためには、農林水産業者や消費者のニーズに的確に応え、ブランド力の強化や生産性の向上、気候変動への対応、環境との調和といった多岐にわたる課題に取り組む必要があります。そのため、農林水産業を支える技術開発・普及や担い手の確保・育成を総合的に進めるべく、農林水産部関係の試験研究機関を再編統合し、平成 22 年に「農林水産総合センター」を設置しました。このセンター内には、農業研究分野を担う岡山県農林水産総合センター農業研究所と高冷地研究室が設置されています。

今後、デジタル技術を活用したスマート農業技術の開発やバイオテクノロジーなどの先端技術を駆使し、岡山ならではの個性と魅力あふれる農業の発展に一層ご尽力いただくことを期待しております。

令和 8 年 3 月

岡山県農林水産総合センター長  
丸山安恒

## 発刊のことば

岡山県農林水産総合センター農業研究所は、岡山県立農事試験場として明治34年4月1日に創設され、令和8年4月1日で満125年になります。この間、日本の農業は、食料増産最優先の時代から、輸入農産物に頼る飽食の時代を経て、深刻な気候変動や担い手不足に対処が必要な農業の時代へと変遷しています。

当研究所は創設以来、時代の変遷と共に充実発展し、岡山県農業のための技術・品種開発や技術支援の拠点として活動して参りました。その活動状況は、昭和26年に発刊した創立50周年記念報告、昭和62年に発刊した85年史、そして平成13年に発刊した100年誌に概括しております。

この度は125周年という節目での発刊にあたり、単純に100年誌にその後の業績を付け足すと非常に長大な誌面となります。本記念誌では、100年誌までの記載を要約するとともに、その後の25年間の業績や活動状況も加えた内容で編集いたしました。

今日の日本農業、岡山県農業は、農産物の輸出量の増加など好ましい側面もございますが、気候変動の顕在化による生産の不安定化、担い手不足が深刻となるなど、以前にもまして、大きな問題を抱えています。これらの課題解決には、気候変動に対応した新品種開発、スマート化及び環境負荷低減技術の開発などが重要であり、取組を進めているところでございます。県農業の発展には、県の施策に沿いながらも、行政的な課題を少し先取りするような先導的技術の開発を進めるとともに、より現場に密着し、現在の農業生産、農業者を支える直接的な支援も極めて重要であると考えます。

気候変動や担い手不足に対峙し、いかに高品質な農産物を安定して生産できるか試されているような時代ですが、先輩諸氏の築かれた数々の業績を礎とし、これからも、普及部門、教育部門との連携を一層密にして、職員一同、岡山県農業の発展に向け、技術的課題の解決に尽力する所存です。今後とも各界のご指導、ご援助をお願いする次第であります。

最後に、本編の発刊にあたり、業務多忙の中で執筆、編集に尽力された職員各位に深く感謝の意を表します。

令和8年3月

岡山県農林水産総合センター  
農業研究所長  
藤井 雄一郎

農林水産総合センター農業研究所 本所（赤磐市神田沖）



農業研究所本館正面より



農業研究所本館上空より



農業研究所圃場上空より

農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室（真庭市蒜山東茅部）



高冷地研究室正面より



高冷地研究室上空より



高冷地研究室圃場上空より

岡山県農林水産総合センター  
農業研究所 125 年誌

The 125th Anniversary of our Station

## 序

発刊のことば

(2) 雑穀…………… 28

## 第1編 沿革

### 第1章 創設から50周年まで

(明治34年～昭和26年)

第1節 高松時代(明治34年～大正13年) …… 3

第2節 北方時代前期  
(大正14年～昭和26年) …………… 4

### 第2章 50周年以降(昭和26年～平成12年)

第1節 北方時代後期(昭和26～42年) …… 6

第2節 山陽町時代(昭和43年～平成12年) 7

### 第3章 100周年以降(平成13年～令和7年) 10

## 第2編 試験研究の変遷と業績

### 第1章 稲作に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで…………… 17

(1) 品種関係…………… 17

(2) 栽培法関係…………… 17

2. 50周年から100周年(平成12年)まで…………… 17

(1) 品種関係…………… 17

(2) 栽培法関係…………… 18

3. 100周年以降…………… 19

(1) 品種関係…………… 19

(2) 栽培法関係…………… 20

### 第2章 麦作に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで…………… 22

(1) 品種関係…………… 22

(2) 栽培法関係…………… 22

2. 50周年から100周年(平成12年)まで…………… 22

(1) 品種関係…………… 22

(2) 栽培法関係…………… 23

3. 100周年以降…………… 24

(1) 品種関係…………… 24

(2) 栽培法関係…………… 24

### 第3章 豆類・雑穀に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで…………… 26

2. 50周年から100周年(平成12年)まで…………… 26

3. 100周年以降…………… 26

(1) 豆類…………… 26

### 第4章 飼肥料作物に関する研究

1. 創設から昭和24年まで…………… 29

2. 昭和25年以降…………… 29

### 第5章 特用作物に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで…………… 31

2. 50周年から100周年(平成12年)まで…………… 32

3. 100周年以降…………… 34

### 第6章 果樹に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで…………… 35

(1) モモ…………… 35

(2) 露地ブドウ…………… 36

(3) ガラス室ブドウ…………… 36

(4) 地域特産の果樹…………… 37

2. 50周年から100周年(平成12年)まで…………… 38

(1) モモ…………… 39

(2) 露地ブドウ…………… 39

(3) ガラス室ブドウ…………… 40

(4) 地域特産の果樹…………… 41

3. 100周年以降…………… 41

(1) モモ…………… 42

(2) 露地ブドウ…………… 43

(3) 施設ブドウ…………… 44

(4) 地域特産の果樹…………… 45

### 第7章 野菜に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで…………… 46

2. 50周年から100周年(平成12年)まで…………… 46

3. 100周年以降…………… 49

### 第8章 花きに関する研究

1. 創設から100周年(平成12年)まで…………… 50

2. 100周年以降…………… 51

### 第9章 養蚕に関する研究

1. 蚕業試験場時代(明治37年～昭和40年)…………… 52

(1) 明治37年から45年まで…………… 52

(2) 大正2年から昭和20年まで…………… 52

(3) 昭和20年から40年まで…………… 53

2. 農業試験場統合(昭和41年)から昭和60年まで 54

3. 昭和61年から平成11年まで…………… 54

(1) 蚕業状況…………… 54

(2) 桑の栽培に関する試験…………… 54

(3) 蚕飼育技術の改善に関する試験	55
(4) 天蚕に関する試験	55

## 第10章 生物工学に関する研究

1. 創設から100周年(平成12年)まで	56
2. 100周年以降	56

## 第11章 土壌肥料に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで	57
2. 50周年から85周年(昭和61年)まで	57
(1) 施肥改善・地力増強	57
(2) 土壌保全	60
3. 85周年から100周年(平成12年)まで	60
(1) 施肥改善・地力増強	60
(2) 土壌保全	61
4. 100周年以降	61
(1) 施肥改善・地力増強	61
(2) 土壌保全	62

## 第12章 環境保全に関する研究

1. 大気汚染に関する調査、研究	64
2. 水質汚濁に関する調査、研究	64
3. 土壌汚染に関する調査、試験	65
4. 農薬残留に対する調査、試験	65
5. 廃棄物の農業利用に関する試験	65

## 第13章 病害虫に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで	66
(1) 病害	66
(2) 害虫	67
(3) 病害虫の発生予察事業	68
(4) 野鼠チフス菌の配布事業	68
2. 50周年から100周年(平成12年)まで	68
(1) 病害	68
(2) 害虫	71
(3) 病害虫発生予察事業	73
3. 100周年以降	73
(1) 病害	73
(2) 害虫	75
(3) 病害虫発生予察事業	77
(4) 共通	78

## 第14章 流通利用に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで	79
2. 50周年から85周年(昭和61年)まで	79
3. 85周年から100周年(平成12年)まで	79
4. 100周年以降	80

## 第15章 農業機械に関する研究

1. 創設から50周年(昭和26年)まで	81
----------------------	----

2. 50周年から100周年(平成12年)まで	81
3. 100周年以降	81

## 第16章 農業経営に関する研究

1. 経営部創設前後(昭和27~35年)	83
2. 自立経営育成・産地形成期 (昭和36~50年)	83
3. 地域農業再編期(昭和51~63年)	83
4. 国際化時代対応期(平成元~12年)	84
5. 消費者重視の農政展開期(平成13~30年)	84
6. 食料安全保障対応期(令和元~7年)	84

## 第17章 準高冷地農業に関する研究

1. 100周年以降(平成22年以降)	86
(1) 果樹関係	86
(2) 野菜関係	86
(3) 花き関係	86

## 第3編 資料

### 第1章 農業研究所沿革年譜・年度別職員数

### 第2章 試験研究項目一覧

1. 稲作	99
2. 麦作	100
3. 豆類・雑穀	100
4. 飼肥料作物	101
5. 特用作物	101
6. 果樹	101
7. 野菜	106
8. 花き	109
9. 養蚕	110
10. 生物工学	110
11. 土壌肥料	110
12. 環境保全	112
13. 病害虫	112
14. 流通利用	115
15. 農業機械	115
16. 農業経営	115
17. 準高冷地農業	116

### 第3章 研究業績一覧

1. 稲作	118
2. 麦作	120
3. 豆類・雑穀	121
4. 飼肥料作物	121
5. 特用作物	122
6. 果樹	122
7. 野菜	129

8. 花き	132
9. 養蚕	134
10. 生物工学	134
11. 土壌肥料	134
12. 環境保全	140
13. 病害虫	140
14. 流通利用	154
15. 農業機械	154
16. 農業経営	154
17. 準高冷地農業	155
18. 共通部門	156
19. 特許等	156
20. 表彰	157

第4章 出版物目録	160
1. 種類	160
2. 主要出版物の内容	160
(1) 研究報告（岡山県農業総合センター農業試験場）	160
(2) 研究報告（岡山県農林水産総合センター農業研究所）	164
(3) 臨時報告	167
第5章 現職員および旧職員名簿	168
1. 現職員名簿	168
2. 旧職員名簿	168